

体育祭の裏側

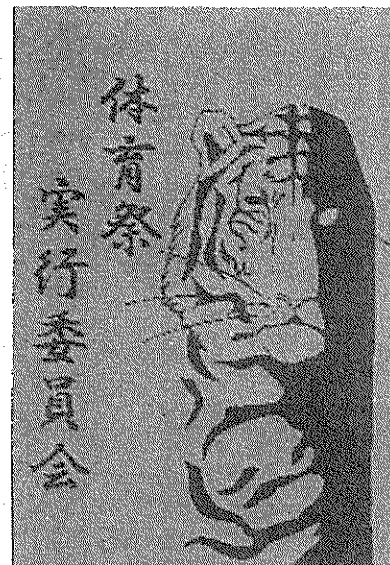
応援委員会と新競技

まもなく体育祭が開催される。毎年この時期になると必ず行われるが、なんとなく出場種目を選び、運動をして、観戦するだけのイベントだと感じる生徒もいるのではないだろうか。

しかし、そんな生徒とは別に、各々に与えられた仕事を懸命にこなし、学校全体に貢献していく生徒も存在する。生徒会、体育祭実行委員会、そして応援団である。

体育祭実行委員会は今年から放課後集会というものを導入して生徒がより体育祭に参加しやすい環境を作ろうとしている。

応援団を構成するのは、通年で活動する有志の指導部と、毎年各クラスから選出され、赤・白・青組に分かれて結成された、いわゆる「応援委員会」のメンバーたちだ。応援団は、体育



実行委員のTシャツの絵

祭に出場する本郷生を応援するだけでなく、先生方や、体育祭にご来校頂いた皆様の方々に、ひいては学校そのものへの感謝の気持ちを表現することを目的として活動しているという。

記者も昨年度は応援委員に選ばれ、彼らと活動を共にした。このような経験から、体育祭に関わる応援委員会の活動がどのようなものであったかを書いてみたい。

体育祭に向けた応援委員会の練習は四月から始まり、体育祭の行われる六月頃まで週に二回、本郷に古くから存在する伝統的な応援歌や、本郷音頭、本郷演舞、応援テーマ等を感じるべく稽古に励むこととなる。体育祭を直後に控えた数週間、朝練も加わり、応援団でない本郷生の目がある開けた場所で演技の練習を行う。毎度毎度の練習後には、気が付くといつも喉が枯れている。これが応援委員会の活動であるが、体育祭で演技を披露できた後には、委員会に加入した当初にはとても予想できなかったほどの達成感と、何にも比べがたいほど生き生きとした熱意を味わう事ができるのだ。

これより数段激しい活動を通年でやっているのが指導部である。体育祭にマンネリ化を感じている生徒諸君も、ひとたび応援団のこの活動に思いを馳せてみれば、彼らの熱意に応えるべく、より一層の努力ができるのではないだろうか。

もう一つの特筆すべき内容は、新競技「大円玉入れ」についてだろう。

『大円玉入れ』は、今年から始まる、中学生行う競技である。では一体どのような競技なのか。体育祭実行委員長の高橋二年一組立花光陽君に話を聞いた。

『大円玉入れ』は、直径二十メートルほどの円の中に玉がたくさん転がっており、その玉を中央にある高さ四メートルの籠の中に入れて、籠の中に入った玉の数で勝敗が決まる競技であるという。しかし、赤組、青組、白組三つの籠がまとまって配置されているので、違う組の籠にも玉が入ってしまうこともある。なお、違う組に入った玉も、入った籠の組の得点としてカウントされる。

立花君によると、玉を投げるとき、上投げよりも下投げのほうが、力の調節がしやすいので籠に入りやすいという。

アンケートにより選ばれた本競技。全力を尽くして良い結果を残そう。

今年の体育祭も白熱した闘いが期待できそうだ。『慎始敬終』——各々最後まで全力で闘い、本郷での思い出になるような体育祭にしよう。

(52関本・54小林)

Let's go 時代劇

第三弾 「花燃ゆ」

今年の郷祭のストーリーガンは「草莽頼朝」諸君、狂いたえ！」である。この元ネタは二〇一四年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」で記者が郷祭実行委員に推薦したものである。今回は「燃ゆ」について扱う。

今回は「燃ゆ」について扱う。

新学年になってからも二カ月が経ち多くの変化が慣れてきた頃だろう。今年一度一番の変化は食堂のリニューアルだろう。今年度の食堂のリニューアルの影響を最も受けていそうな本郷にある購買について質問してみた。

Q「これまでと比べて客数はどうですか？」

A「新しい食堂が出来たら客の数は減っているよ。Q「本郷生に対してどうして欲しいということはあるか？」

A「なるべく列に並んで待つてもらいたい。そのことに関して昔、ある生徒が『追いつけ』と買えな

追いつけ